

【自己の生き方を主体的に考える～かながわ探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ＝かながわ県内職場訪問～】

11月11日（金）1年生から3年生までの前期課程生が、地域学習を兼ねた職場体験＝「かながわ探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」において県内にある農場や試験場、工場・企業を訪問した。

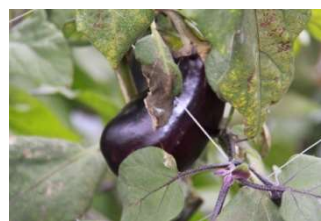
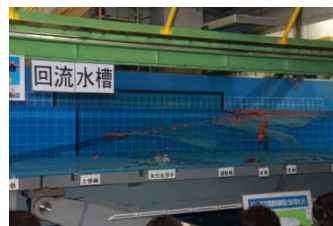
毎年、1年生は第1次産業、2年生は第2次産業、3年生は第3次産業の県内各所を訪れ、各所で取り組んでいる内容についてインタビューし、レポートや新聞等にまとめている。本校では、キャリア教育の一環として自己の在り方や生き方を考える基礎作りとして取り組んでいる。私は、1年生の訪問地である第1次産業各所を訪ねた。はじめに、小田原市早川にある神奈川県水産技術センター相模湾試験場に出向いた。担当者の方から魚のさばき方や鮮度の見分け方の説明があり、続いて水産工学実験用の垂直循環型水槽＝回流水槽で行っている定置網研究の説明を受けた。相模湾では、30年前は鰯（ぶり）が多く取れていたそうだが、鰯の不漁から鰯（いわし）漁に代わり、その鰯も不漁となり水産人口が激減。また、自然現象による急潮や台風の被害により定置網が流され大きな損失も合わさり漁業では生活が成り立たなくなったことも人口減少の原因とも言われた。そこで、神奈川県としては、定置網漁による漁獲高の安定化を図るため、本試験場において急潮にも耐えうる定置網の研究開発に取り組み、3ノット相当にあたる流れにも耐えうる定置網を完成させたそう。官民一体となって神奈川の水産を支えていることに、生徒達は真剣に話を聞き、メモを取っていた。

次に神奈川農業技術試験場を訪れた。ここでは、神奈川県ならではの農作物の品種改良に取り組んでいる。ナスの栽培では、病気の発生を予防する栽培方法の説明があり、また、ナスを手でつぶして試食をさせてもらっていた。フルーツ

のような甘みの特徴で、サラダで食することができるのとのことであった。

そして、最後に、秦野市にある有機栽培に取り組んでいるグランパファーム秦野を訪れた。

ここでは、水耕栽培によるレタスの生産を行っている。コンピュータ制御された管理システムの下、24時間体制で栽培が行われ、毎日約3千株のレタスが出荷されているそうだ。特に害虫対策として敵対蜂を飼育し、アブラムシなどの害虫対策を徹底して行っている点は目を見張るものがあった。担当者からは「安定供給できる強みがある」「農業経験がなくとも意欲があればできる」との説明に、生徒も高い関心を持って聞き入っていた。ある生徒から「TPPの影響は？」との質問に、担当者は自信を持って「ありません」と回答していたことが印象的であった。日本の農業のこれからの在り方を考えさせる取り組みであることは間違いないのではないのか。これから10年後、20年後と日本の第1次産業も大きく変化をしていくことが予想されている。生徒の興味関心が膨らみ、課題意識を持ってこれからの産業界を盛り上げ、郷土かながわの、そして日本を牽引する人材となることを期待する。



左上：回流水槽

右上：ナスの試食

左下：品種改良ナス

右下：水耕栽培レタス